

令和6年度 名古屋大学弓道部OB総会議事録

日時：令和7年3月30日（日）

於：名古屋大学学生会館

出席者

OB(敬称略)

河出清(4代) 酒井邦雄(4代) 星川明敏(6代) 河西稔(10代・師範) 神野直志(14代)

松井計憲(28代) 森部裕嗣(31代・OB会幹事長) 垣沼晃輔(61代)

臼井健太郎(61代) 澤村健弥(63代)

現役

浅野萌葉 伊藤尚希 後藤花苗 榊原尚希 白井歩 外山未遊 中村優志 野口陸汰 安江咲葵人 山下温大

(以上66代)

赤羽佳菜 臼井郁美 遠藤優真 大庭万波 熊谷葵 武柊志 寺田葵 平野将梧 深見知哉 古橋基
(以上67代)

議題1 前主将より戦績報告

令和5年11月～令和6年11月までの戦績、部活運営及び反省について、前主将安江と前女子責任者臼井より報告がなされた。以下に要旨をまとめる。

男子部は、1勝3敗でI部リーグ4位となった。リーグ戦を通した的中率は64%で、I部リーグ残留となった。リーグ戦本番では、選手練習や予想的中率よりも的中が下回ることが多かったのが課題として挙げられた。大きなプレッシャーが掛かる場面で、選手が緊張に打ち勝つことが難しいことに加え、選手層とそれ以外の部員の実力差があり、上位層頼みになっている構造に原因があるとした。部員同士で教えあうことで技術を共有し、自信を獲得していくことが的中率上昇につながると考えると述べた。

女子部は、3勝1敗でI部リーグ準優勝となった。リーグ戦を通した的中率は63%で、的中率上位校2位となり、選抜大会の出場権を獲得した。練習試合の成績は1勝3敗と振るわなかったが、合宿で射込みの時間を増やしたことや夏季休暇中に20射引く練習を取り入れたことで体力を向上させ、精神的にも技術的にもレベルアップすることができた。その結果、安定して高い的中率を記録することができた。また、控えの選手など女子部全体の的中率も向上しており、部全体で選手をフォローできる環境が構築されていた部分は高く評価できる。

<OBからの質問・意見等>

○男子がインカレの出場を辞退した理由は何か。

→コロナの流行による選手不足、選手の怪我が理由。インカレは事前に選手を登録するものであったため替えの部員を入れることができなかった。七大戦や合宿が重なっていたため体調を崩した可能性が考えられる。スケジュール管理、体調管理に関しては今後の反省点となった。

○合宿を行った時期と七大戦の主幹を同時に行ったスケジュールによってどう感じたか。

→合宿は前年より 1 日伸ばし、4 泊 5 日行った。七大戦では主幹を務めたことで多くの部員が合宿での目標ができたことがよかったと感じる。

○リーグ戦の初戦に的中率が下がっているが、これを改善し、スタートダッシュをよくするための案は考えているか。

→初戦だからといって気を張りすぎないこと。緊張しすぎないことが大切だと思うが、具体的にどうしたら良いかはまだわからない。

○リーグ初戦の成績が良い年は、東海学生のころから成績がよくなる。5、6月の成績が肝心だと思う。

○成績が良かった選手が4年になると出場しない。それはなぜか。

→4年生になっても出場は受け付けているが、4年生側からの出場希望がないからである。

○的中率、練習量は可視化されているか。

→前回の OB 総会から、矢数を可視化する表を取り入れたが、一部の人しか書かなくなったため廃止した。

議題2 現主将より挨拶

現主将平野より代目標が発表された。67代は最終目標としてI部リーグ優勝を掲げ、王座決定戦進出を目指す。中間目標として東海地区大会の優勝、全国規模の大会の決勝進出かつ上位入賞を据えている。射技だけでなく、体調や道具の手入れ、礼儀を含めた基本を徹底していくことで最終目標を達成したい。

<OBからの質問・意見等>

○基本をいかに徹底させるか、を見ていくことが大切である。師範からの指導を活用してほしい。

○現役からぜひ指導に来てほしいという働きかけがあるとよい。王座決定戦進出のためには現在よりも一割以上の的中率の伸びが必要である。具体的に、部全体でどれくらいの人がどれくらいの的中率を出しているかを分析して具体的な目標をだし、師範と相談すべき。

○基本の徹底は大切。体調についてもしっかり身に付けていくべき。それを発揮する場として審査に目標をもって参加してほしい。

○弦を外した弓の状態、中仕掛けなど弓具の管理に問題がある。上級生は下級生に弓の扱いを教えること。

○66代は幹部を終えて、どうやったら代目標が達成できそうか、知見があるはず。4年生になっても弓道部に貢献していくべきである。67代は66代が道場に来やすい環境を作ることが求められる。

議題3 新歓活動報告

前新歓係熊谷より、令和6年度の新歓活動報告がなされた。

<OBからの質問・意見等>

○新入生はできるだけたくさん集めてほしい。

議題4 OB 会計報告

前OB係野口より、令和6年度のOB会計収支について報告がなされた。会計報告は森部監事より監査を受けており、内容を変更することなく承認された。尚、会計報告の詳細は悟弓に掲載されている。

<OBからの質問・意見等>

○寄付金とは何か。

→OB 会費を超える額を寄付金として預かっている。

○繰越金には現役会計に渡す金額があると思うが、現役会計の方は順調か。現役会計で困っていることがあれば教えて欲しい。

→現在現役会計について問題はない。

○繰越金がたくさんあるならば、会費の金額を下げるべきではないか。

→会費を変更する予定はない。収支は全て会費で賄うつもりであり、寄付金に手を付けない予定。今年度支出が少なくなっているのは、七代戦の主幹校だったため、遠征費が安かったことが理由である。

議題5 悟弓制作について

前年度は悟弓制作で大きな赤字が出ていたが、今年は 259、750 円の黒字となった。その理由は、現役の悟弓を全て電子化にしたことや、悟弓制作費 3000 円分を納入者全員に支払いをお願いしたことからである。来年度からの悟弓制作について議論が行われた。

① 悟弓電子化アンケート結果について

90名のOBの皆様（重複込み）よりご回答をいただいた。悟弓は紙媒体で配布すべきと回答された方は2名、悟弓が電子配布になった場合、電子版悟弓でも良いと考えている方が全員という結果となった。

→アンケート結果を受けて、来年度（2025 年の悟弓）からOB用悟弓を電子化することが決定した。

<OBからの質問・意見等>

○OBは電子化しても良いが、外部用10部はどこのためのものか。

→医学部弓道部、広告費をいただいている方（3部）、七代戦で配布する用（6部）

○電子化した場合広告費はいらないと思うので検討してほしい。

② 電子化の手段としては、クラウド上にあげる・ホームページに掲載する・メールで送信する、の3パターンを検討しているが、どの形式が良いと思うか。

<OBからの質問・意見等>

○LINEが一番ありがたいが、電子化手段の候補に上がっていないのはどうしてか。

→LINEのグループに追加されるのが嫌な人がいる可能性や、LINEだとグループに入っている人の間で自由にやり取りができる点を懸念しているためである。

○LINE@はどうか。

→月に200通まで送信料無料であるため、0円プランで利用可能。検討していきたい。

○名大図書館に悟弓を送ると国会図書館に送られ、電子化される。今もこれを実施しているか。

→実施していない。

○ホームページに悟弓の内容をみんなが見られるように載せてほしい。

→悟弓は今のところ会費を支払った方にお送りしているものである。

○現役はどの手法が一番やりやすいのか。

→現在利用しているメーリングリストを通じて一斉送信する方法。手間やお金がかからない。但し、らくらく連絡網+に移行した OB は 74 名（3/30 現在）であり、悟弓を郵送しているがメーリングリストに参加していない OB も多いことが課題である。

○LINE を希望する人には聞く。回答が得られていない方からは直接伺うべき。しばらくは電子化への回答が得られていない方には印刷して送り、今後の方向を検討するなど、数年かけて移行していくべき。

→悟弓配信方法は次号 OB 通信にて報告する。

③ OB 用悟弓電子化に伴い、悟弓制作費を減額したい。いくらかの額に変更して、いつから施行していくか議論した。

<OBからの質問・意見等>

○現役はいくらまで減額を見込んでいるのか。

→電子化した場合と紙媒体にした場合にかかる費用の差額は 600 円ほど。悟弓制作費 1000 円とするのが妥当と見込んだ。

○今年度の OB 会費（悟弓制作費含む）納入費と支出を考慮すると、1500 円が妥当ではないか。電子化を実施してから今後の予算を調整していけばいいと思う。

→令和7年度は OB 会費 6000 円、令和8年度は 4500 円（仮）とする予定。

議題6 年賀状廃止について

年賀状制作の労力や、コストを考慮した上で年賀状を廃止したいと考えた。

→OB 総会で全員賛成のため、次回以降は年賀状を郵送しないこととする。その代わりメールにてご挨拶をする予定。

議題7 部長後任について

部長後任は、27代丸山彰一様にお願ひし、承諾を頂いた。就任時期に関しては今のところ未定である。

<OBからの質問・意見等>

○丸山さんはあと5年で定年。後任をしていただいても、その後も考えておくべき。